

石巻エリア



石巻市・東松島市・女川町



1年目の石巻の街並(日和山より)

石巻エリアは、宮城県の東部に位置し、石巻市、東松島市、女川町の2市1町で構成されています。人的被害が県内で最も大きかった地域で、死者・行方不明者数が県内合計の50%を超え、全半壊の住家が約47,000棟に上りました。壊滅的な被害を受けた中、国内外からのさまざまなご支援に支えられ、震災前の水準には遠く及ばないものの、魚の水揚げや養殖業の再開、各地で仮設商店街がオープンするなど、復興に向けた取り組みが始まっています。また、震災を乗り越え、春の選抜高等学校野球大会に石巻工業高等学校が選ばれたことは地域の人々にとって大きな励みとなりました。一方で、約47,000人(地域の人口の約4人に1人)が応急仮設住宅で暮らし、沿岸15市町の災害廃棄物の50%以上がこのエリアに集中し、処理の進捗が7%ほどと、依然として厳しい状況が続いています。



女川魚市場 水揚げ再開の様子



石巻漁港周辺に残るがれきの山

石巻エリアの被害状況

[平成24年3月11日現在]

	地域合計	県内合計
死者	4,804人	9,544人
行方不明者	951人	1,688人
全壊	30,750棟	84,728棟
半壊	16,910棟	147,156棟

応急仮設住宅入居者数

[平成24年3月2日現在]

応急仮設住宅	24,328人
民間賃貸借上住宅	22,692人
計	47,020人

※民間賃貸借上住宅の市町村ごとの件数は、当該市町村で申請受付し入居決定した件数です。申請市町村と入居希望物件の所在市町村が異なる場合があるため、市町村ごとの現在入居件数とは異なる場合があります。

災害廃棄物処理の進捗状況(環境省HPより)

[平成24年3月5日現在]

がれき推計量(千t)	8,264
処理・処分量計(千t)	602
処理・処分割合	7.3%

※がれき推計量は、衛星画像を用いて浸水区域を特定し、これをもとに、環境省において津波により倒壊した家屋等のがれき量を推計したものです。

復興応援ブログ「ココロプレス」からの抜粋です。http://kokoropress.blogspot.com/「ココロプレス」については16ページをご覧ください。

2011年11月22日

石巻から始めまして！ そして地元の味、茶色いやきそば

(石巻市双葉町)



「地元石巻の皆さんと共に歩んだ60年」。東京屋食堂の渋谷明彦さん

2011年11月24日

復興の火種

(石巻市中央)

創業38年、オーナーの山内栄喜さんご夫婦がこの地で一から始めた「かどや精肉店」。「復興の火種になればと思って、時間をかけても、毎日一つ一つ進んで来ました。やる気一つで!!」前を向く姿勢を忘れませんでした。



2011年11月23日

正しい街づくりとおいしいお豆腐

(石巻市中央)

「津波というリスクを背負い大変ですね……という言葉をごさる方もいましたが、ここで商売ができると思うと何も大変ではありません」「物の面と心の面」の2つが成り立ってやっと復興」と、熱く語っていただきました。



「はやし屋」の林光次郎さん

2011年11月25日

ココロも体もリフレッシュ☆

(石巻市大街道東)



石巻市中里三丁目のお店は津波で被災。「お店を再開したところでまたお客様は戻って来てくれるのか」と、なかなか前向きになれませんでした。そんな時、お客さまやエステ業界の30年来の仲間から「お店の再開が待ち遠しい」という声がたくさん寄せられ、9月1日大街道東一丁目にあらためてクリスタルスタジオはオープンしました! 「エステを通じて、心身のケアをしていきたい」と、今後の目標を話していただきました。

2011年12月10日

待望の仮設商店街

(石巻市立町)

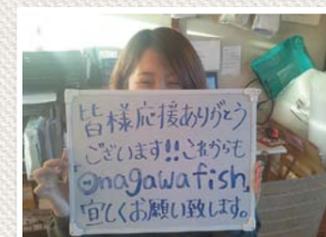
震災でお店の再開が困難になってしまった街の食品や衣料、家電、理髪店、飲食店などの21店舗が集まり、2011年12月10日、石巻市立町に「復興ふれあい商店街」がオープンしました。被災地の仮設店舗が商店街の中に作られたのは、ここ「復興ふれあい商店街」が初めて。「石巻の顔として、北上川を生かした水辺に親しむ街づくり」を目指し、新たな賑わいを全国へ発信し続けます。石巻の復興へ、ホップステップ…ジャンプ!



2011年12月16日

木のお魚に希望を込めて 小さな復興プロジェクト

(女川町)



onagawa fishのスタッフ、片倉さん

2012年2月1日

明日へと繋ぐ、獅子の舞い

(東松島市大曲浜)

地域に根付いてきた伝統文化を守り伝えようと、前進し続ける人々がいます。例年どおり1月の新春祈禱から活動をスタートさせた大曲浜獅子舞保存会は、浜への感謝と犠牲者への追悼の想いを込め、多くの住民の前で力強い演舞を行いました。「故郷はなくなってしまったけれど、そこに残ったものは、地元の人間にとって心からの拠り所」。人々が生きた証として獅子舞を後世へ繋いでいきたいと、決意を新たに今も挑戦を続けています。



2012年1月3日、大曲浜新橋で新春祈禱が行われました

2012年2月3日

愛する地域を未来の笑顔につなげます - 石巻日日新聞社 -

(石巻市双葉町)

石巻市内の避難所など6カ所に張り出された手書きの壁新聞『石巻日日(ひび)新聞』。震災翌日、石巻市内が冠水している中でも石巻市役所まで情報を求めに向かい、「今必要とされている正しい情報」を伝えるため、6日間にわたり張り出されました。「石巻日日新聞社の活動は、地域があって初めて生まれるものです。これからも、地域の皆さんの一歩前に立って、地域に一途に貢献するんだという気持ちで活動していきます」と、社長の近江弘一さん。



2011年12月2日
ものを売ってくれてありがとう
(石巻市中央)

「皆様が喜んでくれた姿は忘れられません。一日でも早く本格営業を始めることで、この地域が活性化し、石巻の歴史と文化を守ることに繋がる」と、石巻市中央商店街で一番初めに営業再開させたモリヤフルーツ。



2011年12月5日
全開で全快を目指します!!
(石巻市中央)

「石巻ZENKAI商店街」……自らの手で再建への準備を進めようと、商店街の方々や声を掛け合い、石巻のもので何が出来るか考えました。“この街のコミュニティになっていきたい”とお話して下さった「京屋」奥村恵英さん。



2011年12月6日
街のお風呂場
(石巻市中央)

「たくさん被災者に心と体を温めてほしい」。「千人風呂」の熊谷宏さん



2012年1月10日
笑顔を支えたい
(石巻市住吉)

「ボランティア支援ベース絆」は、自然と心から出る笑顔を支えたいと活動しています。1つ1つのプロジェクトを通してどれだけ引き出せるか、どれだけたくさん笑顔を支えられるか、知り合った一人一人の笑顔が見たい、という想いが繋がって始まった支援活動です。「気持ちと想い」がある限り、“ボランティア支援ベース絆”の支援活動は終わらないと、石巻復興に向けて、熱く語っていただきました。



2012年1月10日
小さなスコップから
(石巻市中央)

「小さなスコップで一すくい、また一すくい、まるで宝物を探すように片付けていったよ」毎日の積み重ね、維持していくことが後に大きな結果に繋がると「銀玉水」の岡崎耕造さんは話してくださいました。



2011年12月15日
働ける喜び
(石巻市泉町)

「心強い応援で、涙が出ました。早くにお店を再開できて、忙しくさせていただいて、本当に恵まれています」仕事を通して、人と人との繋がりに感謝し、その繋がりを大切にしていきたいと、「井上海産物店」の皆さん。



2011年12月19日
当たり前前大切な
(石巻市中央)

「何かのため、人のために生きているんだと実感した瞬間でした。そしてそれは、人としての喜びであって、当たり前のこと」普段何気なく生活していた中にこそ、生きがいがあったんだと「境菜舗」の境ご夫婦は話してくださいました。



2011年12月28日
本間ちゃんと石巻弁の魅力
(石巻市)

石巻弁とラジオ体操のコラボ「おらほのラジオ体操」でナレーションを務める「我らの本間ちゃん」こと、本間秋彦さん。石巻弁で語る沿岸部DNAと震災エピソードに、ますます本間さんのファンになることまちがいなす!



2012年1月17日
老舗『二色餅』元気に頑張っています
(石巻市泉町)

「自慢の大幅に、皆さまへの感謝の気持ちを込めて。『二色餅』の西川暖氣さん(右)、西川千代子さん



2012年1月20日
「この世がすなわち極楽浄土」
(石巻市渡波)

人間の想像力を超えた天災……必要なのは生き抜くこと。「人を思いやる気持ちに、日本人本来の良さをあらためて強く感じました」と、法音寺の谷川ご住職。生きているうちにいっぱい良いこと、楽しいことをしましょう。



2012年1月21日
生きがいを持って生きること
(石巻市南境)

新しい街、活力のある街とは「みんなが生きがいを持って生きること」。元に戻すだけでなく、もう一度この石巻を持続可能な社会にするチャンス。地域の良さを引き立たせた街づくりに協力していきたいと、「ボランティアセンターを支援する会・山形」の押切珠喜さん。



2011年12月26日
女川町の商店街、復活の第一歩
コンテナ村商店街
(女川町)

国道398号沿い、女川町鷺神浜の高台に『女川コンテナ村商店街』があります。2011年7月1日にオープンしたこのコンテナ村には、飲食店、お花屋さん、電器屋さん、雑貨屋さんや衣料品店があります。NGOの“難民を助ける会”から提供されたコンテナハウスを利用して、被災された地元商店の方々や営業を再開しました。女川町の商店街は津波でほとんどが全壊しましたが、皆さん力を合わせて前進しています。



2011年12月30日
「支援することが自分の原動力になっている」
(石巻市渡波)

「明治大学頑張れ東北 Project」。石巻は今回で5回目です。家屋の泥掻き、支援物資の仕分けと大活躍。「ここでの経験は日々の生活の原動力」「私たちこそ助けてもらっている」と、あくまで謙虚で前向きな皆さんでした。



2012年1月22日
ココロデスクにもできることがあった
(石巻市)

「こんにちは～ お米を届けに来ました～。底冷えのする仮設住宅団地に明るく響く声。「サンライス元気村プロジェクト」は、仮設住宅の独居高齢者を月に1度訪問して健康状態や困りごとをお尋ねし、3キログラムのお米をお届けする活動です。全国から寄せられたお米には、1袋1袋に贈ってくれた方の直筆のメッセージカードが添えられています。贈った方と受け取った方の文通も始まっているそうです。素晴らしいアイデアですね。



2012年1月24日
ヒーロー登場！
大盛り上がりの誕生日会
(東松島市大曲)

保育所にて、破牙神ライザー龍と子どもたち



2011年12月28日
B-1 グランプリ出場、自慢の焼きそばで石巻を盛り上げたい
(石巻市あけぼの)

2011年B-1グランプリ第6回姫路大会で6位入賞を果たした団体「石巻茶色い焼きそばアカデミー」に参加している「八鶏飯蔵」オーナーの林正徳さん。「石巻の復興と東北全体の活性化、石巻茶色い焼きそばアカデミーの目標でもある、石巻全体で盛り上げられるようなイベントをこの地で開催したい。石巻茶色い焼きそばを日本全国に広めること、それは自分の使命です」と、石巻茶色い焼きそばで、まちおこしに力を注ぎます。



2012年1月12日
今こそ、手をあげよう
(石巻市中央)

震災前を越える“全く新しい石巻”を作ろう。



2012年1月25日
震災時のコミュニティ放送局の役割ーラジオ石巻ー
(石巻市鑄銭場)

すべてのライフラインがシャットダウンされた中、唯一の情報源としてラジオ石巻は放送を続けていました。「また同じような苦しみが出てしまっているといけないので、一つ一つ検証しながら記録に残し、最新の情報を集めて発信していく役割」と、今野雅彦さん。「おらほのラジオ体操プロジェクト」に参加し、温かみとユーモアを兼ね備えた石巻弁、きっと心の強さも持ち合わせているはずと、石巻人としての誇りを話してくださいました。



詳しくは

2012年2月1日
MAGENEDO N.D.A.B.E?
“負けないよ そうだろ?”
(石巻市渡波)

一枚のTシャツ。そこには、大切な、熱い想いがたくさん詰まっています。『おおぞらロングビーチクラブ』は、『MAGENEDOT シャツ』を1,500円で販売し、製作費用を除いた半額の750円を石巻市へ寄付しています。2011年12月20日時点での合計金額は10,076,250円にものびりました。「故郷を離れていても石巻のことを忘れたことはありません。元気な石巻を取り戻すまでは、活動を続けていきます!」と、雁部恭司さん。



2012年1月1日
「是非一度お越し下さい」
(石巻市鮎川金華山)

金華山は観光立県みやぎ・南三陸金華山国定公園のシンボルです。境内ばかりが参道の復旧もままならず途方に暮れていたところに、全国からボランティアが続々と金華山に応援に来ました。瓦礫処理や泥掻き、重機を駆使して参道の地ならし、崩れた灯籠や石垣の組み直し……。ボランティアさんたちの懸命の作業のおかげで初詣の参詣者を迎えることができました。来年の巳藏御縁年祭を成功させ、復興の証としたい。



権福宜(ごんのねぎ)の日野篤志さん
初詣で大忙しの金華山金華山神社にて

2012年1月29日
身体を動かし、心をほぐす
(東松島市高松)

ストレスや感情を上手く表現できずに苦しむ人もいます。「障害者日中活動支援施設 共生園」では、集団療法の一貫としてソロダンスー岩下徹さんを招き、「非言語的交流」をテーマとしたダンスセラピーが行われました。



詳しくは

2012年1月27日
心が揺れた、雄勝中学生 GOSPEL
“あなたがいたから”
(石巻市雄勝町)

仙台在住のミュージシャン、いがり大志さんは、週に1度、雄勝中学校に通って生徒たちにゴスペルを指導しています。曲は、“あなたがいたから”。3月にはCDが発売され、生徒たちはドイツに渡って公演します。



歌う門には福きたる! 歌でスマイル!